

【学校教育目標】豊かな心と知性にあふれる、心身ともにたくましく生きる児童の育成

【学校経営の重点】学校教育目標の達成に向けて、教職員が一体となり、こどもが「自分を、学校を、地域を誇りに思う」活力ある学校づくりに向け、「考え」(知)「やさしさ」(徳)「たくましさ」(体)のバランスのとれた児童の育成を目指す。

1. やさしさ UP (自他を大切に、共に協力し合う「友愛の心」の育成を目指す)
2. 考え UP (授業力の向上と学習習慣の確立を図り、学力の定着・向上を目指す)
3. たくましさ UP (健康や安全に気を付け、健やかな心身の育成を目指す)

【児童の実態】○自分の考えを論理的に説明し、こども同士で練り合いながら理解を深めていける力を付ける必要がある。○読解力が弱い、問題文や課題の内容の把握ができない児童がいる。○個人差は大きい。学年や教科によっては、下位層が多い。○家庭学習の習慣が定着していない児童もいる。○通常学級で、支援が必要な児童がいる。

取組の評価内容		Ⅰ 学期自己評価	2 学期の取組
1. 個に応じた指導の工夫	○単元末テストの年間平均点を、 全学年 85 点以上、かつ 60 点 以下を8%未満にする	国語において思・判・表、 算数、理科において知・ 技の平均点は達成	・授業時間内での漢字学習や適用問題の工夫 ・家庭学習の内容の工夫(漢字・音読・プリントなどの出し方)・タブレット端末の効果的な活用
	○各種学力調査(4・5・6 年) 全国・大分県全項目平均以上	5 年(国・算・理)達成 6 年(国・算・理)算数、 理科は達成	・条件付きの作文に授業中に取り組みさせていく。 ・基礎・基本の定着の確実な習得を図る。 ・具体物を使った操作活動を意識的に取り入れるなど実感を持った知識・技能を身に付けさせる。
	○個に応じた指導の工夫(習熟度別 学習、教科担任制、個別指導、 青丸 100 点の取組等)	教員回答 97.4% 3 年生以上で習熟度別 学習、教科担任制を実施	・個の実態を把握し、単元ごとの学習内容に応じた指導形態を工夫して行う。 ・青丸 100 点の取組を継続する。
2. 教員の授業力の向上	○「学校での勉強が分かる」児童 88%以上	児童回答 87.8%で 目標はほぼ達成	・課題、習熟度別の指導、ICT 機器の有効活用などの工夫により、「分かる、楽しい授業」を目指した授業力の向上に取り組む。・低学力児童への個別指導を継続して取り組む。・単元末テストで定着状況を把握し、授業や指導方法を改善する。
	○学び合いの場を工夫し、「算数が 楽しい」児童80%以上	「伝えたい場や学び合う 場を工夫している」教員回答 100% 「算数が楽しい」児童回答 82.7%で目標達成	・考えたい課題の設定の工夫、こどもが困りと感じていることを課題とする・自分の考えをもたせる手立てを用意する。・図、ブロック、数直線などを使う経験を積み重ねさせる。・こどもにとって必要感のある話し合いの設定を意識する。
	○新大分スタンダードを基本にした 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を位置付けた 1 時間完結型の授業展開	「教職員は、子どもにとって 分かりやすい授業になるよう 工夫をしている」 保護者アンケート95.9%	・新大分スタンダードを基本とした授業づくり。 ・「めあて」と「振り返り」、「課題」と「まとめ」を呼称させる。 ・全校統一した「7 つの学習規律」の周知徹底。
	○校内研修への主体的な取組と授業公開	校内研修を計画的に行い、 全体研や互見授業、 学年研を行った。	・互見授業を積極的に参観することにより、授業技術を高めていく。 ・全体研の指導案審議や事後研において活発な意見交流を図る。
3. 小中一貫教育の推進	○新版「家庭学習のすすめ」の定着 (学年×10 分+10 分)に取り組んでいる児童 85%以上	児童 86.9% 保護者 76.4% 教員 92.1%	・懇談や学年通信で家庭への啓発を行う。 ・「家庭学習のすすめ」によるガイダンスを継続する。 ・学習時間を記録し、時間と取組を意識させる。
	○読書の量と質の向上「読書に すすんで取り組んでいる」 児童83%以上	児童回答 82.2%で 目標は達成 「家で読書をしている」 保護者回答46%	・すき間読書の時間を意識して設ける。 ・学年時間を共有した図書館利用。 ・家で読書をする日を設ける。 ・教師の読み聞かせや教室での読書環境の整備。
	○豊府小や南大分中との連携、 情報交換による共通な取組の 実施	5月と8月に、南大分中にて 三校での情報交換を実施。	・児童の実態を共有する。 ・タブレット端末を活用した家庭学習の紹介。 ・ネットモラルや持ち帰りルールの一貫した指導。